

# 2019年度 センター試験の 分析と対応

渡辺 聡

東京学芸大学附属特別支援学校



## 筆記

### 1. 全体的な傾向

今年のセンター試験〔筆記〕でもコミュニケーション能力と読解力を試す出題がなされた。例年通り基本的な問題が多かった。設問形式は昨年度と変わらず、平均点は123.30で、昨年度の123.75とほぼ同じであった。総語数は昨年度より100語弱少ない約4,200であった。

コミュニケーション能力をみる問題としては、  
第1問A：単語をきちんとした音で発話する能力  
第1問B：単語を正しいアクセントで発話する能力  
第2問C：ある発言に対し、適切な応答を考える能力

第3問B：発言の内容を要約する能力  
が例年通り求められている。

また読解力では、  
第3問A：パラグラフ単位で文章の構成を論理的に  
思考する能力

第4問：グラフや図表、説明文を参考にして文章を  
正確に読み取る能力

第5問：長文の物語を読み、内容を正確に把握する  
能力

第6問：論説文の流れを正確に追い、各パラグラフ  
の主旨をつかみながら長文を読み取る能力  
が試される。いずれも文章の全体的な流れをつか  
んだ上で、的確な情報を読み取る日頃の学習姿勢が問  
われる。

### 2. 具体的内容分析

#### <第1問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A 発音 (6点：解答数3)

基本的な単語の発音（母音が2問、子音が1問）を問う問題。子音は黙字が出題された。昨年度はスペリングが異なるものの出題が1問あったが、今年度は3問ともスペリングが同じでも発音が異なる出題であった。

#### B アクセント (8点：解答数4)

単語のアクセントのある箇所を問う問題。昨年度と同様、今年度も2、3、4音節の語が出題された。例年通り、アクセントのある個所に惑わされやすい語 (agree, equal, refer〔問1〕、calendar〔問2〕、character, opposite〔問3〕、architecture, spectacular〔問4〕) が出題された。control, equal, calendar などのカタカナ語も多く出題された。

#### <第2問>

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

#### A 語彙、語法、文法 (20点：解答数10)

語彙、イディオム、動詞の用法等を判断する問題。時制の問題は出題されなかった。イディオムやコロケーションの力を併せて要求する問題 (there is no ~ing〔問9〕、ask + 人 + to + ~〔問10〕) も多い。前置詞〔問1〕、副詞 (句)〔問2〕〔問3〕〔問6〕、動詞〔問4〕〔問5〕、名詞〔問7〕、関係代名詞、形容詞、不可算名詞や分詞〔問8〕等の幅広い知識も合わせ持っておきたい。

**B 語句整序 (12点：問数3、解答数6)**

各文の中に含まれる語彙・語法を用い、意味の通る文にする問題。動詞の用法 (wonder + how much ~ [問1]、make + O + C [問3]) は必出である。仮定法や付帯状況、比較等の文法事項も併せて確認しておきたい。

**C 応答文完成 (15点：解答数3)**

与えられた語句を組み合わせ、対話に即した文にする問題。(A) (B) の組み合わせは、文法や語法上では成立するものが多い。So, [問1]、That's too bad. [問3] 等のせりふに注意をし、対話の流れを考える運用力も問われる。

**<第3問>**

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

**A 不要文選択 (15点：解答数3)**

パラグラフのまとまりをよくするために取り除いた方がよい文を1つ選ぶ問題。第1文や最終文からキーワードを読み取る (giant arrows [問1]、the city, the country, birds [問2])。取り除く文にもキーワードが含まれている場合もあるため、前後の文との関連性に気をつけ、主題から外れない読み方を心がけたい。

**B 発言の意図の要約 (18点：解答数3)**

発言の要旨、及び議論全体の要旨を選ぶ問題。ある事柄を別の表現で言い換える (make the most of on a daily basis を use quite regularly で [空欄30]) ことが多い。また、[空欄32]は、直前に Considering what we have discussed, とあるので、全員の意見の共通点をまとめたものが入る。個人の意見と全体の話の進み方の両方を読み取る柔軟な読解力が求められる。

**<第4問>**

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

**A 表読み取り問題 (20点：解答数4)**

表を参考に、展開される論からの確かな情報を得る力を問う問題。本文で与えられた情報を順次グラフに当てはめていく。表はあくまでも補助的なものであり、説明文を正確に読めるかが問われる。First, Second, Third (第3段落), 等順番を表す語や、These (第4段落) が指す内容をつかみ、論理の流れを正確に押さえたい。昨年度の [問4] は、最終段落に続く話題を考えさせる問題であったが、本年度は内容理解の問題になった。

**B 案内読み取り問題 (20点：解答数4)**

案内から適切な情報を読み取る問題。設問を読み、与えられた条件をもとに、合致する情報がどこにあるのかを探し出していく。問いに関する情報は上から順に出てくるわけではないので、設問の求める情報がある箇所 (複数の情報を合わせる場合もある) を的確につかむことが大切である。

**<第5問> (30点：解答数5)**

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。題材は物語であった (昨年度は日誌の抜粋)。

5W1Hをきちんと捉えて筋を追う。登場人物の行動や発言、場面の状況から心情を読みとる。柔軟な思考を持ち、物語で何を一番伝えたいのかを深く読み込んでいく。

**<第6問> (36点：問数6、解答数9)**

形式と問題数、配点は昨年度と同じ。

各段落の内容を正確に読み取り、内容を問う設問 (設問A)、段落の要旨を問う設問 (設問B) の2本立て。各段落のポイントをつかみ、話がどのように展開し、主題は何か、という広くかつ深い読解力が求められる。また、ここでも、正解の選択肢は本文で使われていない単語や表現で言い換えてある場合も多い。

### 3. 昨年度から変化のあった点

- ①第1問Aで、下線部のスペリングが同じでも発音が異なる語の出題となった (昨年度はスペリングが異なるものの出題が1問あった)。
- ②第3問Aの「取り除く文」を選ぶ問題では、いずれも連続した4文の中から選ぶ問題となった (昨年度は連続していない文もあった)。

### 4. 日頃の学習で大切なこと

**①多面的に語彙を増やす**

ただ単に単語の1つの意味だけを覚えるのではなく、英語での定義、反意語、同義語、接頭辞・接尾辞、品詞の転換、自動詞・他動詞等、語彙を様々な方法で多面的に増やしたい。語彙に関連性を持たせると、未知の語に遭遇したときにも想像力を働かせてなんとか意味がつかめるようになる。カタカナになっている語の英語と日本語の意味の差異や発音・アクセントに注意して覚えるのも1つの方法であろう。

## ②語と語のつながり（語法、Collocation）に関心を持つ

ある単語を頭に入れる際、その語がどのような語と一緒に使われる場合が多いのか、英語としての語と語の自然なつながりに気を配る習慣を身につけておきたい。単独だとイメージしにくかったり、覚えにくいような単語も、語句のつながりやまとまりを意識して覚えるようにすると、効率的に覚えられる。

## ③英語を聞き、自ら口にして使ってみる

音読を通じ、アクセント・強勢・構文（主語と述語の区切れや省略等）に注意を払い、日頃から英語を聞くことを習慣とする。単語一つひとつの音に注意を払い、併せて文全体の内容を理解しながら聞いてゆく。聞いた内容を実際に口にして使ってみることを繰り返すことで運用力を身につけたい。

## ④場面や内容のイメージをつかむ

会話の応答を考える場合（第2問C）、その会話が行われている時、場所、状況等をイメージする力が求められる。また、例年第5問で出題された物語文は、話の流れをつかんだ上で、行間から心情を読み取り、何を伝えようとしているのかを読み込んでいきたい。

## ⑤わからない語があっても、前後関係からその意味を類推する習慣をつける

センター試験では語彙に関する知識が求められる。とはいえ、意味のわからない語は必ず出てくるものと覚悟しよう。すべての単語の意味がわからなくても主旨は理解できる、と余裕を持って文章を読み進めたい。未知語に出会ったとすぐに辞書で意味を調べる読み方をしていると類推力、想像力が身につかなくなってしまう。

## ⑥論理展開を重視した読解力を養う

どんな読み物でも最後まで通して読み、論全体の展開がどのようにになっているかをパラグラフ中心に考える。接続語を手掛かりに、パラグラフがどのように構成されているか全体の論調を捉え、各パラグラフのキーセンテンスを探し、要旨をまとめる。「木を見て森を見ず」にならない大局的な読み方を心がけたい。



# リスニング

## 1. 全体的な傾向

出題形式、解答数、配点は昨年度と同じである。読まれる総語数（1,100語強）は昨年度とほぼ同じ。読み上げ速度は昨年度とほぼ同じで自然な感じであるが、音声面でのリダクションもあり、聞き取りにくい箇所もあったと思われる。問題音声も設問ごとに2回流された。昨年度、過去10年間で一番低かった平均点（22.67）は、今年度31.42となった。内容はいずれも生徒の日常生活や学校生活の中で起きうる身近な話題がテーマになっている。

## 2. 具体的内容分析

<第1問>対話ビジュアル（12点；解答数6）

❖男女の対話を聞き、適切なイラスト、数字、単語、文を選択する

❖各対話の総語数：約30語

1回目と2回目の読み上げの間に約8秒のポーズがある。イラストやグラフを選ぶ問題は、昨年度と同じ各1問であった。数値を聞き取って簡単な計算をする問題も昨年度と同じ2問である。最初のせりふで状況をつかみ、2番目～4番目のせりふのキーワードを聞き逃さないようにする。Rome, Vienna, Istanbul（問2）の固有名詞、put it back（問4）、are against our proposal than for it（問6）等、聞き取りにくい語句も含まれ、細部まで集中して聞く必要がある。That sounds OK.（問1）、I wish I had. / So did I.（問3）等、日常会話でよく使われるフレーズにも慣れておきたい。

<第2問>対話応答補充（14点；解答数7）

❖男女の対話を聞き、最後の発言に対する相手の応答を選択する

❖各対話の語数：約30語

1回目と2回目の読み上げの間に約8秒のポーズがある。せりふの数は14（昨年度は11）。疑問文で終わる対話の設定が2問あった（昨年度と同じ）。最初の2つのせりふから、会話の場面や状況を想像できるようにしたい。ここでも、You seem depressed. [問7]、10 days off [問8]、Come on! [問10]、Actually, [問11]、Can I take your order? /By the way, [問12]等、日常会話で使われるフレーズが頻出する。

**問10**

Man : Hey! You're walking so slowly! We'll be late for the game!

Woman : But the traffic light has started to flash.

Man : Come on! We can make it if we run.

**選択肢**

- ① No. I don't think it's safe. (正解)
- ② No. You can't go to the game.
- ③ Yes. It looks like a traffic jam.
- ④ Yes. We can change places.

<第3問A>対話内容 Qs & As (6点; 解答数3)

❖男女の対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する

❖各対話の総語数: 約50語

1回目と2回目の読み上げの間に約10秒のポーズがある。せりふの数は5が2問、8が1問（昨年度は3問とも6）。事前に選択肢に目を通し、場面が想像できると余裕ができる。対話を最後まで聞き、状況や流れの変化をきちんととらえる。話者が相手に同意しているのかそうでないのかといった話の流れをつかむとともに、話者の意図を正確に把握する力も求められる。

**問14**

Woman : There you are. Have you been waiting long?

Man : Yes, for 30 minutes! Where've you been?

Woman : Well, I was waiting on the other side. I didn't see you so I came around here.

Man : I've been calling your phone, but I couldn't get through.

Woman : Sorry, my battery died. Anyway, I'm here now.

質問 : Why was the woman late?

**選択肢**

- ① Her phone was lost.
- ② Her watch was slow.
- ③ She forgot the time.
- ④ She was in a different place. (正解)

<第3問B>長文対話内容 Qs & As + ビジュアル (6点; 解答数3)

❖長めの対話を聞き、その内容についての問いを読み、答えを選択する。

❖対話の総語数: 150語弱

1回目と2回目の読み上げの間に約25秒のポーズがある。事前に博物館の展示案内の内容に目を通し、聞き得た情報と合わせて質問に答えていく。多く出てくる情報の中から、何について話しているか、男性は何をしたいのか、曜日や時間はいつなのか等を考えながら、求められる情報を確実に押さえたい。

<第4問A>

モノログ内容 Qs & As (6点; 解答数3)

❖モノログを聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する

❖説明文の総語数: 約200語

1回目と2回目の読み上げの間に約30秒のポーズがある。情報が出揃った段階で各問の答えを絞り、2回目は確認の作業に当てたい。質問文から事前に推測した状況をもとに、出てきた情報を一つ一つ積み重ねていき、話の流れに沿って順に問題に当たっていく。話の流れが変わったり、固有名詞が出てくる場合もあるので、メモを取りながら質問されるポイントの個所を絞って聞くことが大切である。選択肢では、答えとなる語を別の表現で言い換えたり (tease to make fun ofに、hit to run intoに、to be strong and not to give upを to be tough and to keep on goingに)、まとめて表現する場合も多いので、要点をつかむ力も求められる。

<第4問B>

長文会話内容 Qs & As (6点; 解答数3)

❖3人の会話を聞き、その内容についての質問を読み、答えを選択する。

❖会話文の語数: 約300語

1回目と2回目の読み上げの間に約35秒のポーズがある。問題冊子に書かれている会話の場面と質問文に目を通し、事前にどれだけの状況を想定できるかがポイント。あとは一人ひとりの主張する内容を

総合的に理解する力(共通点や相違点)と、求められた情報を正確に取り出す力が必要である。ここでも、選択肢では答えとなる箇所が別の表現で言い換えられていることがある。

### 3. 対応のポイント

#### ①状況・場面を想像し、話の流れをつかむ

事前に問題指示文、選択肢、イラストや表、状況説明文等に目を通し、内容を予測してから英語を聞く。複数の方法が提示され、途中で展開が変わり、最初に出てきた情報が最後まで同じとは限らない場合もある。方向性を予測した上で、最後まで丁寧に流れを確認したい。

#### ②英語特有の表現に慣れる

話の展開がつかめれば自然に聞くことができるが、会話に特有のフレーズは、聞けるだけではなく、意味が自然に頭に入るまで聞き慣れておくようにしておきたい。

#### ③言い換えの表現を読み取る

リスニングと言っても、選択肢を読み取る力は筆記試験同様に要求される。聞き取る英語の表現がそのまま選択肢に入っているとは限らず、別の形で言い換えてある場合も多くある。正答の鍵となる情報をきちんと整理する力もつけておきたい。

### 4. 日頃の学習で大切なこと

#### ①英語の音を聞き、その音を口にする活動を習慣にする

「継続は力なり」と言われるように、1日10分間でも英語を聞き続けることが大切である。様々なメディアを使って英語の音やリズムを継続的に耳に入れておくことを習慣とし、その音を真似して口に出す活動を続ける。英語の語順のまま頭に入れておくことを続けていくと、次第に英文の流れが意味を伴った内容となって頭に残ることになるであろう。

#### ②聞いた内容を論理的に組み立て、考える力を育てる

リスニング力をつけるには、聞いた音を頭の中で論理的に組み立て直す作業が必要である。教科書等の、ある程度分量がある文章の内容を理解した上で英語を聞いて論の展開をつかむ。そして音読、Qs & As, dictation等の基本練習を日頃から行い、論理的思考力も養っておきたい。

#### ③自分のことばで実際に表現する機会を増やす

コミュニケーションを成立させるためには、お互いの考えをきちんと伝え合うことが必要である。相手の伝えたいことを理解し、それに対して自分の意見や考えを、決まりきったパターンではなく、自分のことばで実際に表現する活動を増やしていきたい。

